241　中央大学記事（中央大学学年試験・第二十四回卒業式・花井法学博士祝賀会・四十三年度の授業）

〔『法学新報』第十九巻七（二二二）号　明治四十二年七月一日〕

○中央大学記事

○中央大学学年試験　各科授業は何れも先月中旬を以て終了し予科は十四日より本科及ひ専門科は同二十一日より挙行し来る三日を以て全部終了の筈なり

○第二十四回卒業証書授与式　本月八日午後二時より卒業式挙行の筈にて当日式場の次第は左の如し

第一　理事法学博士奥田義人氏学事報告

第二　学長法学博士菊池武夫氏卒業証書及ひ褒賞を授与し了りて告辞

第三　卒業生総代の答辞

第四　来賓司法大臣子爵岡部長職閣下演説

第五　講師法学博士岡村輝彦氏演説

第六　学員法学博士花井卓藏氏演説

○花井法学博士祝賀会　兼て所報の如く学員花井卓藏氏の法学博士の学位を受けれらたるを祝せんとて中央大学学生団及学員会か企てたる大祝賀会は去月六日中央大学内に於て開催せられたり夜来の風雨全く霽れ校門高く掲けられたる「花井法学博士祝賀会」の表札は一と際人目を惹き校庭には三百余坪の大天幕を張り右側に喫茶室を設け茶菓を備へて委員諸氏は熱心に来会者を歓迎し定刻に至りて室内人山を築き流石の委員諸氏も聊か狼狽の気味あり午後二時振鈴と共に一同紀念講堂に設けられたる式場に就き千余名の学員学生は犇し犇しと詰め懸けたれは場内立錐の余地なくして場外に溢るるに至れり其盛況想ふへきなり菊池中央大学長は「君か代」の奏楽了ると共に平素の森厳に似す頗る満悦の状にて登壇左の如き意味の祝辞を述へられ

花井君の学位を受けられたに付ては種種の方面より考へて祝すへき理由多多あれども予の今日の役目は開会の辞を述へるにあれば皆さんに祝詞を述へて載てそれを聴く方である併し此際若い人人の心得の為めに是非述へたいことか二つある其一は花井君は非常の勉強家であることで由来才子と云ふものは不勉強で誤魔化す癖があうて兎角惰けるものであるが花井君は才子であるにも拘らず非常の勉強家で其職務の繁劇なるに拘らす孜孜として本を読み其上交りも甚だ広いのである彼の弱弱した体で如何して箇様に勉めることが出切るかと不思議に思ふ程で夜は一時若くは二時に及んで始めて寝に就くことは其常であると云ふ如何なる高等の教育を受けた人でも若しも学校を卒ふるや否や之を抛擲して顧みさる者が世間に名を成した例しはない古い語に勉強は百事を成すの母であると云てあるが花井君の学位を受けられたのは此勉強が確かに重なる原因の一つであると信ずる其二は花井君は勝気にして負嫌ひの人であり人が五分の事をやると自分は一寸やつて見せ

ると云ふ気合の人で例へば事理を論ずるに当ては年長者であろうが先輩であろうが更に頓著なく飽迄も己れの信ずる所を主張して一歩も譲らずして形式や体裁の前にを辞儀をする人でない夫れ故に自分が負けないと云ふには相当の準備も要れば十分なる研究もせんければならぬ其上に人と飽迄論ずるのであるから其益を受くることは極めて多い此負嫌ひが矢張り今度の学位を受けられたる重なる原因の一である若い人人は須らく之に鑑みて大に勉強し且つ人に負けぬと云ふことを能く心掛くへく花井君の如きは実に其好模範である今日の事は祝いたく言ひたいことは沢山あるが之は是れからお述べになる皆さんにお任かせして置くとして只一つ言はして欲いことがある恐らくは誰も言はんであろうと思へはなり花井君は頗る博識の人である頗る注意深い人である一例を挙ぐれば其知人の妻君の履歴の小に至るまで委はしく知つて居る如何なる家庭に生長し如何なる教育を受けてどう云ふ長所がある人であると云ふ様なことまで能く識り何時如何なる方法に依り研究せしか誰も思寄らざる事柄までチヤンと心得て居る人である——追追諸君も妻君を迎へらるるならんが其際には家庭なり教育なり長所なり性質なりに付き聞く必要あらば花井君の世話にならるるが宜かろう君の言は十分信用を置くに足ることを予輩は保証する——斯く些事にまで注意到らざるなく能く世間の事情を研究し居る人なれば其学んだ法律学を応用するにも法理を研究するにもどうしても空理空論に走ることの出来ない人で始終自分の知る事情に引合はして研究応用するが故に近来流行の下らぬ理窟に陥り下らぬ解釈を付けることの自然と出来ない人であります一体此学校を創めた一の目的は英法は理論にては欧洲大陸の法に及ばざる所あるべきも実地の応用に於ては頗る妙を得て居る所あれば此学風を広め様と云ふのであつた法律は紙に書くものではない活世間に適用する様に出来て居るものなれば十分に能く此性質を発揮し得る様な人を作る考でありました花井君は此吾吾の希望を実現した人と云はねばならぬ花井君の今度の学位を受けられたのも其学の深遠とか高尚とか云ふ近来流行の誰にも解からない理窟に精通された訳ではなく能く法律を解し能く実地に応用するの実力を認められたるに因るものと信する左れば花井君の学位を受けられたに付ては此学校の設立に与かりたる古き自分抔の喜びは如何の様であろう他のそういう関係なき人人の迚も推量することの出来ない程の嬉しさである諸君に於ても十分の祝意を表せられんことを望みます

次に学生を代表して法律科第三年生難波辨太郎氏登壇左の祝詞を朗読したり

凡そ生を天地の間に享くるもの何人か其栄を希ひ其誉を期せさるものあらんや而かも空しく槽櫪の間に斃るるもの比比皆然らさるはなし先生抜群の才を抱き特立独行遂に法学博士の栄誉を荷はる豈隆なりと謂はさる可けんや今茲に之れか祝賀の大会を挙行せらるるに当り生等亦其席末に列することを得何者の幸福か之れに加へんや拝聞す先生夙に神童の名を郷党に馳せ遂に志を決して本校に学ひ歳二十にして法律活用の業

に就き三十にして出てて立法の主府に上り今復十歳ならすして学苑最高の称号を荷はる是れ真に一世の破格後進の模範吾輩宜しく先生を以て明鑑と為す可き也顧ふに明治二十五年学位令の発せらるるや爾後博士の栄を荷はれたるの諸先生亦尠なしと為さす而かも游蹤海外に及はすして其選に当られたる者果して幾人ありや蓋し先生の如きは希に観る所なりとす先生天稟の才を以て前後七千三百有余日黽勉努力一日の如く出てては立法協賛の大任を全うし入りては法律活用の遽務に当り平生眼を東西の書に曝し心を今古の跡に寄せ学理の蘊奥を窮め実地の応用を勉め其国家社会に貢献せられたるの功に帰せすんはあらす是に於てか先生の今日あること其偶然にあらさるを知るなり先生業に已に学深く識高し何そ其学位の有無を問はん而かも其受くへきものにして之れを受く名実相伴へりと謂つへし先生の如きは真に所謂錦上更に一段の異彩を添へたるもの先生の心事推解に難からさるなり先生は素之れ本校出身の一大才今は学員にして而かも本校辞達学会副会長として生等の誘導に尽瘁せらる而して今未曽有の異例を啓きて栄誉を双肩に荷はる寧ろ瞻望に堪えんや今茲に祝賀の大会に際し本校学生一同を代表し聊か蕪辞を陳して祝意を表す

次に卜部喜太郎氏は学員を代表して左の祝辞を述へられ

我が中央大学出身の花井卓蔵君が今回最も栄誉ある法学博士の学位を受けられたるに付きまして我学員一同は学生諸君と共に花井博士を招請致して祝賀会を開くに至りました、而して私は其席末に列するの光栄を担ひたるのみならず、此壇上に立て博士の為めに祝辞を述ふる名誉を授けられ私の身に取りまして此上もなき面目であります、先刻学生総代の方の祝文中にもありました通り、花井君は齢漸く二十歳にして弁護士となり三十歳にして代議士となられたのであります、弁護士と致しましては法廷に於て雄弁を振はれ殆んど弁護士社会を風靡して居ると云ふ事柄は私が申すまでもなからうと思ひます、代議士と致しては議場に雄飛し、一頭地を抜いて居らるることは諸君御承知の通であります、衆議院の議場に於て花井君の弁論微つせば帝国議会に憲法竝に法律の代表としては弁論なきかの感あることも諸君御承知の如くであります、加之立法家として法律取調委員会の有力者たり、法律家として常に論壇に講壇に該博なる知識を発揮せられて居ると云ふことも私が改めて申すまでもないことでありまして特に我立法事業の上に於て最も新らしき所の大法典たる刑法及其施行法は多く花井君の手に成て居ると云ふ事柄は天下後世に伝ふべき一大功績であると私は信ずるのであります、即ち花井君は立志伝中の人であると云ふことは私が申すまでもないことであります、斯様に功績ある花井君が一法学博士たるに於て何かあらん、と云ふ御感じがあるか存じませぬけれども併なから吾吾は友人として、旧き友人として花井君の為めに大に祝さなければならぬのであります、是れは単に私は友人として花井君の為めに一言致したのでありますが、其次ぎに我が中央大学の為めに祝さなければならぬ、それは先刻菊池学長より其理由を御述べになつたのでありますが、中央大学創立

二十年の紀念会を開きましたのは去る三十八年のことでありますから今は早や創立以来二十有四年になるのでありますが、中央大学の事業として天下に誇るべきことは随分沢山あつたに相違ありませぬ、併ながら学校として育英の任に当つて居る以上は天下に名を轟かす人物を出すと云ふ事柄が学校の事業として何物より第一に算へなければならぬことと思ひます、而して此点に於て花井君の如き人物を出して我が中央大学の名誉と云ふものを天下に発揮し得たと云ふことは実に中央大学の為めに祝さなければならぬ点であらうと思ひます、其次ぎには私は講師の為めに祝さなければならないと思ひます、当時親しく教堂に立たれ花井君の為めに法律学の教育をせられたる講師諸先生は花井君の今日偉大なる成功に対しては実に感極まりて言なく、先刻菊池先生の申された如く我が中央大学を創立した其目的と云ふものは実に花井君の如き人物を作りたいと云ふのが、主因であつて、此祝賀の席上に於て院長として学長として祝辞を述ぶるに当り既往中央大学創立当時を追想すれば其一端の目的を達したと云ふことを以て感喜に耐へぬと云ふ御演説がありました、如何にもさうであらうと思ひます、菊池学長を始め花井君の為めに親しく教育せられたる講師諸先生の御喜びは実に推察するに余りあることであります、それのみならず花井君が今回名誉の学位を得られたと云ふことは又実に吾吾花井君と同時に或は後れて中央大学の門を出ました所の四千有余名の学員、並に現に中央大学の門に出入して法律の学問を学びつつある二千有余名の学生諸君の為めに更に大に祝さなければならぬと云ふことを感ずる次第であります、花井博士が此学問の為めに又業務の為めに非凡なる勤勉力、絶群なる精力を有せらるると云ふことは既に諸君の御承知のことであります、自己の業務に付ては人に儁れたる勉強の力を有し又学術の為には凡人の真似をすることの出来ない程の精力を以て、研究琢磨に力を尽して居らるることは私共の常に敬服して居る所であります、如何なる人でも自己の出来得る限りの力を尽して往つたならば、天然自然に備はりたる美質を発揮し或る域にまで達し得らるると云ふことは申すまでもないことでありますが、花井君は今回博士の学位を得られ、益以て吾吾に対し、努めて止まずんば必ず事は成るものであると云ふ模範を示されたものと確信致すのであります、三年や四年の間私立学校で学問を致しても此競争場裏に立つて大成功をすると云ふことは覚束ないと云ふやうな感じを持つ者が多いといふ今の世の中であります、併ながら我が花井博士あり大に人意を強ふしたではありませぬか、此点に於て花井君は立派なる手本を示されたものであります、私共平生博士の知遇を辱ふして居りまして兄弟の如く交際をして居りますので馴れるに従つて平生は別段敬意を払ふと云ふやうな念慮も持たず馴れ馴れしき交際を致して居りますが、今日の如き此式場に臨み我が中央大学の為めに此人ありて天下に名誉を発揮し併せて吾吾の為めに此一大模範を示された方であると云ふことを考へますとなかなか以て平生なれなれしき態度を以て博士に近つくの

は勿体ないことであると深く私は感じた次第であります、我が学員並に学生諸君の為めに祝すべき点は即ち此点であらうと思ひます、吾吾の模範となつて呉れた人であると云ふことを考へましたならば及ばずながら花井博士の跡に附て一歩は一歩と進み母校を辱かしめぬやうにすると云ふことは満場の諸君の脳髄に浮んで居ることと思ひます、斯様に私が演壇に立ち前途有望なる学生諸君と一堂に相会し、未来の花井博士が此中央大学の大なる講堂に満て居ると云ふことを私は感ずるのであります、其次ぎに法学博士の為めに祝すと言ひませうか、或は学位令の為めに祝すと申しても宜いと思ひますが、申すまでもなく博士の学位と云ふものは斯学の蘊奥を極めたる人に対して名誉を表彰する為めに法律が与ふる所の一の尊き位であります、併ながら学位令発布以来先刻祝文の中にもありましたやうに一種の鑄形に製せられたるものでなければ学位は与へられないものであると云ふやうな傾きがあつたと云ふことは確かに此所で明言することが出来やうと思ひます、敢て必ずしも帝国大学に縁故ある者に限り博士の学位を与へるとは申しませぬ、敢て必ずしも海外に遊びし人に限りて学位を与へしものとは断言致しませぬ、然れども今日までの博士と云ふものは一定の形を有して居るものでなければ与へられないと云やうな傾向であつたらしく感じられます、兎に角社会に活動せる活きたる人物は博士の中に少いと云ふことは事実であると断言し得らるるのであります、然るに此度花井博士と云ふ尊むべき博士が出来たと云ふことは蓋し学位令と云ふものが初めて斯様な人を得たので、学位令若し心あらば非常に歓喜するであらうと思ふ、それ故に私が此花井博士の祝賀会に於きまして法学博士と云ふものの為めに祝し、学位令の為めに祝すると申しましたる理由は爰にあるのであります、若し此学位令の働きと云ふものが益其全きを得て満場諸君の御勉強の結果花井君の跡を追ふに於て欠くるところがなかつたならば、憶ふに今日の如き祝賀会は第三第四第五と続いて来るであらうと存じます、而して其時に到て先づ第一に祝賀の意を表したる今日の事を十年二十年の後に回想し得るところの有益なる歴史を造るものであると私は考へるのであります、其次ぎには同じやうなことを申すやうでありますが、法律学の為めに悦び朝野法律家の為めに祝するのであります、法律の事務に熱心なること花井博士の如き、法律の学問に忠実なること花井博士の如き、斯様な人が今回学位令の命ずるところに依て博士と云ふ名誉を表彰すべき尊き学位を得られたのであります、元来学位令などと云ふものは花井君の如き人を待つが為めに出来たものであるが、それが今までは其運用が十分でなかつたので、今回初めて其運用の宜しきを得たと云ふて宜いのであります常に現行の法律が正当に適用せらるると云ふことを希望し期待して居る此法律学の為め或は朝野法律家の為めに祝すると云ふのは此点にあるのであります、従て日本法学の為めに大に祝さなければならぬと云ふ論結は当然到来するのであります、斯様に今日の祝賀会と云ふのものの祝すべき理由は多いのであります、其他尚ほ

多くありませうけれども簡単に列挙致しても斯様な点があり又此祝賀会と云ふものは其催ふしは中央大学の学生諸君の催ふしであり、中央大学学員諸氏の催ふしでありますけれとも、其祝賀を致す趣意と云ふものは実に国家の為めに斯の如き人物が生じたと云ふことを祝する大なる祝賀会であると云ふ意味に解かなければなりませぬ、申すに及ばぬことなれども人の模範となり、アノ人の一つ真似をして見たいと云はれ人から仰慕され師表とせらるる人は極めて世間に少きものであらうと思ふ、然るに花井博士の如きは満場の学生諸君、四千有余名の学員諸氏、我が中央大学の講師並に朝野の法律家が皆仰て以て模範と為すに足りるのである実に容易ならぬことである、彼の人の如くに世の中に処したならば恐らく間違ないであらうと云ふ観念は深く諸君の脳髄に染み渉つて居ることと思ひます、単に此機会に止まらず常に花井博士の行動を眼中に置かれて、吾吾が前途の事を講すると云ふことは又今日の祝賀会を開きたる趣意に能く協つて居ることと私は思ふのであります、最後に私は花井博士は尚ほ一層奮闘せられて愈々以て天下後世の模範となるべきことを意とせられんことを特に切望致します、感極つて十分思ふことを申上ぐることの出来ないのは御詫を致しますが、花井博士の為め益々此奮闘を続けられて真に法学博士とは斯様なものである名実二つながら花井博士に依つて見るべしと云ふ実蹟を挙げられんことを希望致します

次に江木博士は中央大学講師を代表して登壇し左の祝辞を述へられ

諸君、今日の此の集会は花井博士の祝賀会と云ふ名でありますが、其意味に付ては甚だ疑ひを存するものがあるのでありまし、其の一端は唯今ト部代議士より御述べになりましたが、此会は花井君一身の祝ひではないのであります、即ち吾吾の自ら祝ふのであります、吾吾が吾吾を祝ふのである唯だ其席へ花井博士に是非出て貰はなければならぬ訳で茲に来て貰つたに過ぎない、それで今日の祝賀会なるものは吾吾の祝賀会でなければならぬと云ふ考でありますが、何のために祝するかと云ふことはいろ〳〵ありましよふが私は特に学校の目的のために祝さなければならぬと云ふことを一言して置きたいのであります、此学校の歴史と云ふものは諸君の中にも余程御忘れになつた方があらうと思ふがつまり今日此学校より花井博士を出したのは言はば此学校の目的が達せられたのだと云ふ事になります、或は僅かに其端緒に著たと云ふても宜からうと思はれる、実は此学校の成立ちと云ふものを諸君に知つて貰はぬと此中央大学と云ふものが何のために世の中に出来て居るかと云ふことが分らない、他にも多くの私立学校がある、而も此中央大学の特色は何であるかと云ふことを御承知になるやう諸君に願はなければならぬ、之を知らなければ此中央大学へ来て居ると云ふことが少しも意味をなさぬのである、是は言ふまでもないことですが、此中央大学なるものの一番初めは英吉利法律学校と称へたのであります、此学校の歴史を続(ママ)んだ人は知つて居らるるであらう、英吉利法律学

校とは随分妙な名である、外に名前の付け様もありさうなものを英吉利法律学校とは先々オツナ名をつけたものです、其学校を造るときには此所に居らるる今日の学長菊池君を始め今此所には居られませぬが奥田其他二三の人が集まりて当時世間の法律界の有様を見て慨嘆し斯様な有様ではならぬ是ではならぬから之を矯正するためには吾吾別に学校を建てなければならぬと云ふのが抑々の創めである、其頃総て私立の学校はどう云ふ時代であつたかと云ふと皆な仏蘭西法律ばかりである、何も仏蘭西法律が悪いと云ふこともないが、其頃の所謂仏蘭西法律の教授と云ふのは何をして居たかと云ふことを考へなければならぬ、それは唯只仏蘭西の民法の条文を暗記して其条文の講釈を聞て、仏蘭西民法の条文よりえらいものはない、何か大切な御経の文句のやうに心得是より立派なものはないと云ふ風であつた、是ではならぬと云ふので殊にそれに反対して英吉利法律学校と云ふものを設けた、御存知の如く英吉利法学は不文法であるから、一方では世の中の実用を教へ、一方では区区として法律の文句に拘はらず唯だ生徒の頭を練り、法律思想を生徒の頭へ入れると云ふことを主義として法律の教育をし、此教育方法を以てしなければならぬと云ふので、創立せられたものであります、それ故に此学校の主義として法律の文句に拘泥せず深く法律の精神を学び其応用を教へると云ふことが此学校の趣意であつたのであります、斯様にして成立つた此学校は然らば如何なることをしたかと云ふと、此学校を続続出られた人で判事となり弁護士となつて世間に働いて居らるるが、此学校を出た人は何れも他の学校を出たものとはやり方が違つて居ります、やり方が違ふのはどう云ふ訳かと云ふと単に法律の条文を学んだのみではなく広く応用の出来る学問が注入されて居りますから実業家としても役に立ち、弁護士にしても役に立ち、司法官としても役に立ち、立法官にしても役に立つやうに頭が拵へてある頭の基礎が出来て居るから何をさせても役に立つ訳である、さう云ふ活動の広き人物を造らうと云ふ学校であつた、其様な特色が今日まで此学校に存して居るのである、然らば其精神がいつ発揮されたかと云ふと諸君も御承知の如く日本国中の大議論となりたる所謂法典延期論と云ふやかましい問題である、諸君は今日民法を学んで居られますが其前に旧民法と云ふものが出来た、それが全く仏蘭西流義に出来た民法でありました、其様なものの出来るのは此学校では大反対でありました、所で議会が出来る前に或は其民法と云ふものが或は出来るかも知れなかつたが、愈々議会まで打止めておいて、そうして其法典の施行と云ふものに大反対をしたのである、菊池博士を始めとして両穂積博士、土方君、奥田君、花井君なども大に努められ而も天下唯一の此学校のみが反対致した、民法の草案は而も政府案である、政府はそれを通過させやうとして非常なる運動をやつた、其運動に対したのは吾吾微微たる一学校であつたが其精神と云ふものは実にえらいものである、其当時菊池博士を始めとして皆な握飯を食ひ水を飲み勤勉努力遂に政府案を両院共に潰して了つたのであり

ます、政府案であるから政府はドシ〳〵金を出して運動して居る、一方では握飯を食ひ水を飲み遂に天下に反対して勝利を得た、その所に居られる三宅君の頭も其時の心配ではげたと云ふ事です、其精神を発揮したのは何であるか即ち此学校を起したる精神が其所にあるのであります、斯く論じ来つて見まするとと今日民法と云ふものが出来て居るのは必竟此学校の産物と云ふても宜いのであります、併し其代りに此学校の金も相応に使つた、諸君は御存知ありますまいが此学校の建築は今の様な平屋ではなかつたのだ、元と〳〵二階造りであつたのだが火災後に再築せんにも法典延期の運動の為めに費用をなくして二階を建てる事ができなかつた、斯様な学校の平屋も吾吾に大なる紀念を与へる建物であります、而も天下を相手として其様な大事業を成し一文の運動費用も他の助けを借らなかつたのも畢竟此学校の精神が其所にあつたからであります、斯くて吾吾の思うやうな民法でもないが旧民法には遙かに勝つた民法が出来たのですが、刑法と云ふものは其以前から出来て居て是も亦全く仏蘭西学者の手に成つて居たのであります、是も実行久しきもので奈何ともすることが出来なかつたのである、併ながら此刑法の改正と云ふ問題も遂に問題となつて来た、併し如何に悪い刑法でも長年の問行はれた刑法と云ふものを根底から破壊すると云ふことはいかぬ、穏かな議論でない、故にどこまでも吾吾の学校で養はれた精神で総て実地でなければならぬ実地を取るのでなければならぬ空論ではいかぬと云ふ考へから、政府より議会へ度度刑法の全部の改正案が出るけれども其様なものを出してはいかぬと云ていつも潰して了つたのであります、年年歳歳出ぬやうに押へ来つた所で松田正久と云ふ老練な人才が政友会から司法大臣になつた時、此政友会の多数を率いて此案を通すことにされると通過することになる、善いものなら通しても宜いが非常な空論ばかり集めたものを通してはならぬ、愈々通過すると云ふことなれば其儘ではおけぬ、幾分でも出来るだけどうかしなければならぬと云ふので吾吾も改正委員となつたが花井君は実に繁劇匆忙の間に昼夜を問はず力を是に尽されたのである、今日出て居る刑法に向つては尚ほ大大的反対するところはあるけれども勢ひ已むなく斯様なものになつた、何にしても是も亦法学院出身の花井君の手に成りしものと言ふて宜い、是事は誰れも能く認めて居る分り切つた事実である、今日博士号を与へらるるのが早いの遅いのと言つて居る場合でない、斯様な次第であつて民法が吾吾の手に於て初めて成り次ぎに不満足乍らも刑法も亦吾吾の手に掛つたものとなつたと言はなければならぬ、私が今日祝賀の意を表するのは此学校を開きたる目的が一歩は一歩を進め其成績を顕はして来たと云ふ此点から今日此祝詞を述べる次第であります、大分草臥れましたから是れで御免を蒙むります

右了るや花井博士は聾せん許りの喝采声裡に鞠躬如として壇上に現はれ

諸先生及諸君、今日は私の為めに盛なる祝賀会を御開き下さいまして誠に厚き御同情、温き御友誼に対し深く感謝の意を

表します、私は明治十八年九月本校の学生となり同二十一年七月を以て業を卒へたる者でありまして、即ち修学上の歴史に於て諸君と系統を同じくするところの者であります、而して爾来二十有余年の間教へられたところの学術に依りて生活を致して居りまする御承知の通り法律の学問は記憶の学問にあらずして推測の学問であります、判断の学問であります、研鑽愈々深くして趣味益々深きを覚ゆる学問であります、故に三年にして五年にして、十年にして其蘊奥に達し得らるべき性質の学問ではありませぬ、終身学びましても猶且其足らざるを感ずる学問であります、然るに身を弁護士と言へる職業に投して居りまして俗務の間に煩はされまして、此貴重なる而して趣味多き而も終身学びても尚其蘊奥に達し難き法律の研鑽と云ふことに従事すること能はざるを深く悲むで居ります、顧みれば二十余年前の昔、今日諸君が書冊を携へて中央大学の門戸を出入せられると同じやうに其昔のことを考へて見ますれば、過ぎし昔の方が私には甚だ慕はしく感じて居るのであります、而して菲才浅学何等学術的事項に対して益するところなきに拘はらず、寧ろ諸君に対して二十年後れて居るにも拘はらず、今茲に五月二十四日図らずも法学博士の学位を授与せられたのであります、駑鈍の材固より其器にあらざることを認めて居ります慚愧の念措く所を知らぬのであります、諸先生諸先輩は此壇上に立ちて種種私を御称誉下さいましたけれども過賞敢て当らずと思ひます、然れども此度の事一に母校の賜物であります、乃ち諸先生薫陶の賜物にして、又諸同人指導の賜物であると存じます、私は斯様に感じまして、衷心大に悦ぶ次第であります、而して衷心の悦び実に禁ずべからざると同時に衷心の恐れも亦禁ずることが出来ぬのであります、斯かる望外なる光栄を得ました段は実に私は衷心に於て大に之を歓ぶ、然れども此光栄を享くると同時に将来学術と言へる貴重なる事項に対し学位を汚さざるだけの勉強と働きとを致さなければならぬと考へ及びましたならば衷心の歓喜は茲に責任と言へる重大なる負担を加へられたることとなりまして、如何にして此責任を全ふし得らるべきか、衷心甚だ恐れを抱いて居るのであります、然れども私は喜悦の中に恐れあり光栄の中に責任ありとの一大教訓を授けられたるものとして大に努力する積であります、諸君懶惰の路は極めて平坦にして極めて滑かであります従て通過し易きものであります而も勉強に帰るの道は甚だ遠く且つ長く容易に達し得られぬものであります、職業柄とは申しながら平かに滑かなる懶惰の道を辿り今日まで参りました私が其道遠しと雖も長しと雖も帰らざるべからざる勉強の道に帰らねばならぬ責任を負ふことになつたのであります、茲に謹んで悦びと恐れとを二つながら得たることを諸君の前に告白致し更に厚き御同情の彌が上にも厚からんことを望み温き御友誼の彌が上にも温かならんことを望むの衷情を披瀝致しまして今日の諸君の御高義を多謝致します茲に重ねて中央大学並に諸君の健康を祝し而して校運の益々隆昌に向はんことを望むの微衷を表明し聊か御挨拶の言葉に換へます

なる答辞を述へて降壇せられ次て石山学員会理事は学員会東北支部、前田同支部長、学員会名古屋支部、藤田同支部長、学員会広島支部、学員会関西支部及植村俊平、一瀬勇三郎、三阪繁人、早速整爾、林頼三郎、横山金太郎、柵瀬軍之佐、中村啓次郎、大岩勇夫、井上剛一、品治隆、鳥居錦次郎、高野兵太郎、井上八重吉、坂本彌一郎、白川朋吉、浅野三秋、林敬之助等の諸氏より来著の祝電を朗読せられ次に佐藤中央大学幹事は花井博士より本会に対し物を贈りて厚意を表せらたたること及ひ鳥居、結城、窪田、野村、榊原、橋倉、竹田、藤井、伊藤、川崎、竹田、瀬下、福岡、田代、中村、川瀬、勢多、井伊、左右田、深田、武本、上代、藤村、上松諸氏を始め博士と同期生たる諸君より本会の紀念として当日の景況を基礎としたる趣向の「絵ハカキ」を調製寄贈せらるる旨を報し且つ之にて式を終了すへきことを告けられ夫れより水町、小谷両委員の紹介にて余興を開始し橘家圓喬の落語は滑稽極まりて人の頤を解かしめ永田錦心は「那須與市」の一曲を演し満場関として声なく唯感嘆の外なく次に学生の「ヴァイオリン」と「ハーモニカ」の合奏及ひ「ヴァイオリン」と琴の合奏何れも喝采声裏に演奏し終りに細川風谷の「老中の曽我物語」と題する風谷一流の得意なる講談あり

斯くて委員は兼て左側第一、第二、第三講堂より廊下を通して設備し置きたる模擬店「しるこ」「おでん」「そば」「うどん」「粟餅」等の諸店へと一同を案内せり店には印半纏の長江委員の一連、法服の伊藤委員の一連、八字髯の赤手襷赤前垂の武山委員の一連数十名列を成して入り来る賓客に各受持の食事を羞むるあり一方には学生思ひの佐藤幹事は講師学員諸氏に来らると学生は遠慮して飽食し得さるへしとて大声揚けて御待ち下さい〳〵と怒鳴なれとも連中、中中に御承知なく見る丈けは宜しかろうと二百余名なだれを打て押寄せらるる杯可笑しきこと限りなく各店とも繁昌言はん方なく一千人前を準備したる「おでん」は第一著に数分間にて売切れの看板を出し「しるこ」「粟餅」なと孰れも平らけ尽されたれとも「そば」「うどん」は根強く準備したりと見へ凝り性なる明月庵主人の精製せる細打物にして来会者の嗜好に適したれは再三再四の襲撃に遇ひたれとも平然として遂に落城に至らす是より委員は花井博士及ひ片山、卜部、新井の諸氏菊池学長等を「そば」「うどん」を以て包囲攻撃したれは諸氏渋面を作り泣かん許りの有様にて箸を執らるる様は満場破れん許りの喝采なりき午後六時学生諸氏は一同花井博士と母校との万歳を三唱して帰途に就きたり

午後六時半大講堂に於て学員諸氏の祝宴会は開かれ二百の師弟同窓一堂に会し杯を引て談笑する既に痛快の事に属す況や我花井君の学位受領を祝するをや歓声堂に充ち其楽み言ふへからさるものあり宴酣にして学員会理事長岡村博士は起て祝辞を述へ且つ花井博士と中央大学との為めに祝杯を挙け石山理事は学員を代表し登壇して祝詞を朗読せらる即ち左の如し

中央大学学員勲四等花井卓藏君博士会多数の推選に因り法学博士の学位を享く寔に中央大学の名誉にして復た国家の慶福たり君の才学弁舌は当台希に観る所其名声は既に嘖嘖として

全国に喧伝す又吾人の喋喋を要せさるなり初め君の吾英吉利法律学校を卒業するや年歯僅かに二十幾くもなくして代言人試験に登第し越えて十年三十歳にして衆議院議員となり又十年にして今や即ち法学博士となる其栄進の速かなる蓋し異数と謂ひつへし而かも君か向上の精神に富むや毫も現在の栄誉に安することなく弁護士衆議院議員法律取調委員等の職を兼ねて夜を以て日に継き切切孜孜其職に殉せんとす其熱誠なる古今に匹儔乏く東西に類例尠かるへし若し夫れ君か其熱誠を其才学とに由りて公私に貢献せる功績に至ては挙けて数ふへからさるものあり彼の帝国議会の法律問題に対して快刀乱麻を断つの慨を示し刑法の審査刑法施行法の立案に当りて能く独特の識見を発揮して完璧を成さしめたるか如きは其功勲真に後昆に伝ふるに足る抑も君か煩雑なる弁護事務の傍ら能く内外法理の研鑽に努め立法の事業に尽瘁せるは英邁の資性と絶倫の修養に依ると雖も亦其の非凡なる精力に待たさるへからす是実に常人の企て及ふ能はさる所なりと云ふ可し今や君か学識と功績とは漸く国家の公認する所となり名誉ある博士の称号は君か頭上に落ち来れり憶ふに博士の称号は以て君の軽重を為すに足らす君亦以て念とせさるへしと雖も君か学位享受の結果は独り君の光栄なるのみならす従来官爵偏頗の弊を破り私学出身博士の先例を開始せられ我中央大学に一段の光彩を添へられたるものにして吾人学員の愉快を禁する能はさる所なり乃ち蕪辞を述へて以て祝詞と為す

次て奥田博士登壇謹厳なる体度を以て左の祝辞を述へらるる

花井君足下　今晩は岡村博士が本学を代表せられ、又石山氏が学員を代表せられて夫夫祝詞を述べられましたので、私は潜越ながら足下の友人を代表して、茲に一言を呈することと致します

足下が今回法学博士の学位を受けられたに付ては、足下の母校たる中央大学の学生は足下を知ると知らざるとに拘らず、満腔の熱誠を以て、本日午後一時より足下を招請して本堂に於て祝賀会を開きましたのでありまするが、会する者実に一千名内外もあつたかと覚へました、本学が明治十八年に英吉利法律学校の名の下に創立せられまして以来既に二十有余年を経過して今に至つて居るものでありますけれども、学生が今日の如くに満腔の熱誠を表して斯る催しを致したのは、実に未曽有の事であります、独り本学に於て然るのみではありますまい、他の官公私立学校に於きましても恐らくは類例のないことと云ふて、宜しかろうと信するのであります、是れは単に先輩たる足下が学位を受けられたことを喜ぶの発動のみでは決してありませぬ、畢竟足下が平素母校を愛し陰に陽に後進の誘掖に努められ、犠牲を後進の為めに払はれたるより、感激の情が此機会に於て発し来りたる結果であることを疑ひませぬ、而して今夕は吾吾学員及び友人が引続いて茲に此祝賀会を開き足下を招請しました所が、足下には既に学生の催に係りたる祝賀会の為めに疲労し居らるるに拘らす、快く臨席を辱くせられたるは来会者一同の真に満足を表する所であります、由来吾吾が此祝賀会を催すに至りましたのは、

敢て足下が今回学位を受けられたのを足下の為めに祝すると云ふ旨趣でなく又私立学校の出身で法学専門を以て学位を受けられたのが、足下を以て初めとなすが為めと云ふ旨趣でもなく、寧ろ本学及び吾吾自信の為めに催うしたものであると云ふを憚らぬのであります、其訳は外ではない、凡そ世の中には其実が無くして形にのみ現はれて居るものが甚だ多いと同時に、其実が有て形に現はれずに居るものも甚だ少なくないので、殊に学界に於て此現象を見ることが多い様に考へます、失礼の言ではありまするが、足下の頭髪は常に頗る不整頓である、然れども足下の頭脳は頗る明晰にして且つ整然である、足下の御体は稍々健全を欠いて居る、然れども其御体を纒ふて居る所の法律的学識に至ては、頗る健全にして而も秩序正しく備はつて居ることは、何も今回の学位授与の形式で現はれたのではなくて、遠く十数年前に於て知る者は能く知つて居りましたのであります、現に足下が明治二十一年七月未成年の身を以て、英吉利法律学校を卒業せられ爾来十年を経過する間に、足下の頭脳の明晰にして且つ整然であつて、学識の非常に進歩し来りて、必ずや将来法学界に異彩を放ち畏敬せらるる人とならるべきことが、少くとも本学の先輩中には認められて居りまして、明治三十年の初め頃と覚て居ります、是非足下を本学より四五年間海外に留学せしめて、一層其学識を研がしめむとの議先輩中に在りましたので、不肖義人は一目の長を頼み無礼をも顧みず当時此議を足下に伝へ尚ほ自から勧むるに此事を以てしました所で足下は他に思ふ所がありてか将た又身辺の事情永く海外に遊ぶを許さざるものありてか、理由は知らざれども兎に角当時足下の承諾を得ることが出来得られなかつたのであります、爾来足下は自ら練磨し自ら研究し愈々益々其学識の進歩を見、之れを或は法廷の弁論に或は衆議院の演説に或は各種法律の雑誌に或は学校の講演に或は又法律取調会の事業に、発揚せられて、斯学に於て人をして畏敬せしめらるるに至りました、故に学位の如き形にこそ現はれて居りませなんだものの、其実に至ては夙に備はつて居つたのでありまするから、今回足下が学位を受けられたのは只足下の学識が晩蒔きに形に現はされたと云ふまでのことであつて、足下に取りては真に兒戯に類することであつて毫も意に留められて居らぬことを疑ひませぬ、従て吾吾も足下が学位を受けられたことを足下の為めに祝する必要は毫末もないと云はなければなりませぬ、去りながら足下が学位を受けられるに至つた事歴を顧みて見ますれば、尋常の人が学位を受けたとは大いに其趣きを異にして居つて吾吾が畏敬し且つ本学の為め又吾吾自身の為めに此祝賀会を催うしたのは主として此点に存するのであります、是れまで学位を受けたる人人を見ますると概して相当の学歴即国立の大学を卒業したとか海外に多年留学したとか云ふが如き経歴が基礎となつて居るのでありまして申さば先輩たる内外の学者に依りて学校の机の上で直接に注入せられた学識に依つて学位を受くるに至つたのであると云ふて差支へはないのであるに拘らず、足下の所謂学歴は明治十九年二十年頃の実に不完

全を極めたる英吉利法律学校の課程を履で卒業せられたと云ふ一事があるのみであつて、爾後他の学校に入られたのでもなく又海外に留学せられたのでもない而も天然に備はりたる明晰なる頭脳は夥多の立派なる学歴を有して居る者よりも遙かに超越したる学識を湧出し来つて其れが基礎となつて今回学位を受けられたのであつて是れ迄に類例がないと云ふことを断言してよろしいのでありまする、斯る事歴に依つて学位を受けられたる足下が我が中央大学の出身者であると云ふのは真に本学の誇とするに足るのであつて又之れが吾吾の友人であると云ふのは真に吾吾の名誉とする所であります、今晩の祝賀会は即ち本学及ひ吾吾が有する此名誉を自ら祝せむことを期したもので他に旨趣はないのであります、古人言へるあり常に人に如かざるの心存すれば則ち進むありと、足下尚ほ春秋に富まる、希くは吾吾の意の存する所を諒とし益々練磨研究を遂げられ斯学の為めに尽して以て、本学及び吾吾の有する此名誉をして将来一層向上する所あらしめられよ、此意味に於ては私は一同と倶に杯を挙げて足下の万歳を三唱すると倶に本学の万歳を三唱致します

次て花井博士の答辞あり佐藤幹事は更に各地よりの祝電を読み上け祝詞を紹介し信夫恕軒翁は義士伝「堀部安兵衛武庸」を演せられたり其各自の漸く退散したるは十時を過くる頃なりし尚ほ当日出席の人人は穂積、富井、菊地(池)、奥田、江木、岡野、土方、岡村、原、桑田、高根の諸博士、伊藤、寺島、元田、高橋、岩田、太田、片山、信夫、鹽谷、廣井、大塲、渡邊の諸講師を始め無慮弐百余名にして其氏名は次頁に掲くるか如し因に増島博士は特に懇篤なる祝詞を花井氏に寄せられたりと云ふ

又博士か本誌には往時より浅からぬ関係ありたるの故を以て我社の天野徳也氏より博士を祝し贈りたる祝詞は左の如し

衆議院議員弁護士中央大学法学士花井先生。以謇諤之言義侠之風。其名夙噪于法曹界。至其才学世已有定評。頃日為博士会所薦授法学博士。人咸栄之。蓋先生起身於憂患之中。強毅堅忍刻苦碎励。以至于此。余為先生祝之。中央大学出身士。受外国学位者往往有之。而未聞有受帝国学位者。有之自先生始。余為斯校祝之。我邦由来有官学私学之別。各掲旗幟不相下。而先生荷今日之栄実為異数。区区門戸之見熄而公平之端開。余為斯道祝之。先生年力方荘。進修不息。闊歩芸林。先多士鳴。嗚呼盛哉。先生嘗執筆於我法学新報。余亦列記者末。此際不可無一言。因聊陳蕪如此。

出席者

稲田周之助　乾喜代八　石田安治　岩田寅造
飯田吉五郎　飯沼鬼一郎　伊藤久次郎　稲木重俊
岩崎勝三郎　稲村辰次郎　井上敬吉　石山彌平
伊藤悌治　岩崎鐵次郎　石原毛登馬　犬飼駒太郎
市川喜一　井關源八郎　馬塲豊三郎　原嘉道
西村勘之助　堀江専一郎　星野照　穂積陳重
保坂永之丞　徳田直吉　富井政章　大河原夘八
大石次郎藏　小野瀬不二人　岡田實磨　小栗盛太郎
岡野敬次郎　大塲茂馬　小俣房吉　大澤長橘

大松直重　大塚勝二郎　奥田義人　尾崎利中
太田資時　岡崎伊勢藏　岡村輝彦　小野寺圖其易
小山殘平　脇田勇　渡邊常吉　渡邊金城
渡邊豐治　渡邊澄也　渡邊福三郎　川手忠義
川島仟司　加藤歌吉　河村鋼太郎　川瀬榮太郎
片山義勝　兼藤良三郎　加瀬禧逸　川久保源治
米原芳藏　吉川俊男　横田千之助　吉田孝
芳野泰一　横田民造　高野金重　高橋捨六
田中信一郎　田中文藏　高野介藏　田中武雄
武田明　高木金之助　高津鍬三郎　田邊喜一
田邊熊一　多田信夫　高野安太郎　添田增男
園部悅次　長瀨善隆　中田正治　中川眞太郎
内藤庄吉　中山佐市　中村滿　中田駿郎
卜部喜太郎　野村美策　野村此平　黑田太一郎
桑田熊藏　胡桃正見　工藤武重　窪田欽太郎
山田章二　山田奕鳳　山田清一　山本一藏
丸山熊八　松平信恭　丸山通一　牧野充安
松井親民　前田久次郎　松浦與三松　前田定之助
前田米藏　槇安市　松岡高明　槇重美
松尾參三郎　桝谷益藏　深田鶴松　福間博
福田又一　藤本德之進　小出範次郎　小菅寅吉
小林定五郎　古作幸三　江木衷　小山哲四郎
松林治義　寺島直　千代木祐壽　手塚彥太郎
寺島元重　天野德也　新井要太郎　安達元之助

阿部彌一郎　朝比奈幾太郎　秋田清　淡近澄
秋山清　佐藤正之　左右田信次郎　坂本生成
坂崎儁　佐佐政一　澤田武一　佐藤三吾
佐伯金太郎　佐藤章次　菊地(池)武夫　木村精一
木下謙二郎　木戸梅藏　木村兼孝　三輪富十
三和彌三郎　南壽　三浦大五郎　紀志嘉實
宮崎三郎　信夫恕軒　白井竹二郎　鹽谷恒太郎
重信喜太郎　品川英一　白尾清治　清水有國
白井清行　島野金吾　斉藤正毅　清水彌三郎
廣井辰太郎　樋口竹次郎　日下吉平　東多次郎
東兵右衛門　土方寧　森本邦治郎　毛利文質
森惣之祐　元田肇　森肇　末崎與曾吉
須原大助

委員

樽林篤夫　河口林作　田中佳次　武山保一
崎山米三郎　竹内律藏　大鷹貴祐　楊湘
蹇先渠　李懷亮　鈴木唯一郎　永江定一
齋藤勇　伊藤祐治　難波辨太郎　水町新三
諸留勇助　高崎長一郎　三谷益雄　山本角之助
竹内忠一　杉本脩一　中原豊　山崎頼介
渡部繁雄　鴨覺太郎　吉岡禎作　小谷三雄
高野孫一　清水萬太郎　大鹽政良　岡澤八一
細谷明　澤村直　津村彌一　柳澤仲衛
高木栄助　潘昌煦　丸山哲二　末永實藏

杉保善助　石津壽一　陸鴻彝　矢澤謙
遠山澤次郎　佐藤保次郎　大前寛明　五井節藏
本橋六三　簗田周雄　上村憲三　森川義一
稲川二郎　宮村正治　内藤和行　宮田進
中野三之助　伊達珍馨　小野康　大久保齊
綱澤重清　島信　豊島次郎　加藤邦三
關徳雄　池邊乙人　井上省一　秋草愛一

○四十三年度の授業　新学年の授業は例に依り来る九月十一日より開始の筈なるか経済科は金井法学博士の帰朝と共に数名の新講師を招聘し学科目等にも大に改正を加へて従来の面目を一新すべし

法学科にありては岡松法学博士債権総論を開講せられ上杉、松本の二講師を始め大場、片山、谷野、泉二講師等新進の諸名士は夫夫授業を担任せられ花井法学博士亦忙中を割て刑事法の臨時講義を開始せらるる筈なり